

〔翻刻〕青果日記（昭和五年）——眞山青果文庫調査余録（三）——

青木稔弥・内田宗一・高野純子・寺田詩麻

*キーワード

眞山青果文庫・青果旧蔵書・青果日記・星槎ラボラトリー・入院記録

はじめに

前稿「〔翻刻〕青果日記（昭和三年・昭和四年）——眞山青果文庫調査余録（二）——」〔調査研究報告〕42号）に引き続き、本稿では眞山青果の昭和五年の日記を翻刻する。底本は前稿と同じく、星槎ラボラトリー・眞山青果文庫所蔵「昭和四年・五年日記」〔函架番号081〕である。本資料には昭和三年十二月から昭和五年四月までの日記が、研究メモの類とともに記されている。本稿は、その後半部分の昭和五年一月五日から四月一日までを対象とする。なお、一月一日から四日は記載がなく、四月一日は見出しのみで記事を伴わない。また、一月六日の条は見出しがなく、「（以上六日）」の記載により日付が確認される。一月六日の条に続く記事は日付がなく、七日、八日どちらの可能性もあるが、頭痛に関する記事で六日に続く内容が存することから、本稿では一月七日と推定し

た。

昭和五年の日記の中心は、青果の入院記録である。青果は昭和五年一月九日より東京帝大病院・稲田内科に入院している。病名は、三月二十四日の条に「右側足背動脈閉塞性動脈内膜炎」と記されている。日記記事には、執筆活動や来訪者、外出先等の記録に加え、体重、血圧、便通など体調に関する記録も多く認められる。青果は、この入院期間中の家族の生計を案じ、自身の病が重症化して家計が困窮した場合に取るべき方策を、家族あてに「大切な手紙」と題する書面にまとめている（眞山青果文庫調査余録）〔調査研究報告〕41号）参照。退院日は日記中に明記されていないが、三月二十七日の条には、医師より退院しても差し支えないと言われた旨の記載がある。また、青果は入院中、自宅や劇場などへ一時外出して夜に病院に戻るということがたびたびあったが、三月三十一日の条には、自宅に帰ると記すのみで病院へ戻ったという記載がない。さらに三月三十一日の条の末尾には「入院中見舞品」と

して受け取った見舞品の品目とそれを贈った人物を一覧にして記していることから、この三月三十一日が退院日であったものと推定される。

昭和五年の日記のうち、一月五日から七日は青果自筆と推定されるが、入院をした一月九日以降の記事は他筆と目される。昭和五年の入院記録としては、本資料の他に「昭和 年日記（上巻）」と布地表紙に朱書された帳面「函架番号081」が存し、二月九日から三月二十五日の日記が青果の自筆で記されている（三月二十五日の記事は線で抹消されている）。内容は「昭和四年・五年日記」の記述と重なり、「昭和四年・五年日記」はこれを後に浄書したものと判断される（『眞山青果文庫調査余録』（『調査研究報告』41号）参照）。なお、「昭和 年日記（上巻）」には加筆・修正が施されているが、「昭和四年・五年日記」の本文には、それが反映されている箇所とされていない箇所とが混在している。

「昭和四年・五年日記」は、第一書房より刊行された「自由日記」に記されている。書誌情報を以下に簡単にまとめる。

写本、1冊。210×150cm。本製本（革表紙）。外題なし。

背題：「日記」

扉 …「自由日記／我が生活より／I／東京／第一書房刊」

奥付 …「昭和三年十一月五日印刷／昭和三年十二月五日発行／第一

書房自由日記／定価三円／刊行者 長谷川巳之吉／刊行所

東京麹町区一番町五 第一書房／振替東京 六四二二三／電

話九段 三三四四 三五〇九／印刷 単式印刷株式会社／製

本 橋本久吉」

紙数・264ページ

本体から脱落した日記用紙、研究メモ、領収証、雑誌切り抜きなど、紙片計10点を挟み込む。

「自由日記」冒頭には昭和四・五・六年の「三年間の日曜表」が掲出され、日記用紙の後には住所録用紙、出版広告が付されている。また、歴史上の人物の肖像画が挿絵として挿入されている（全4葉）。

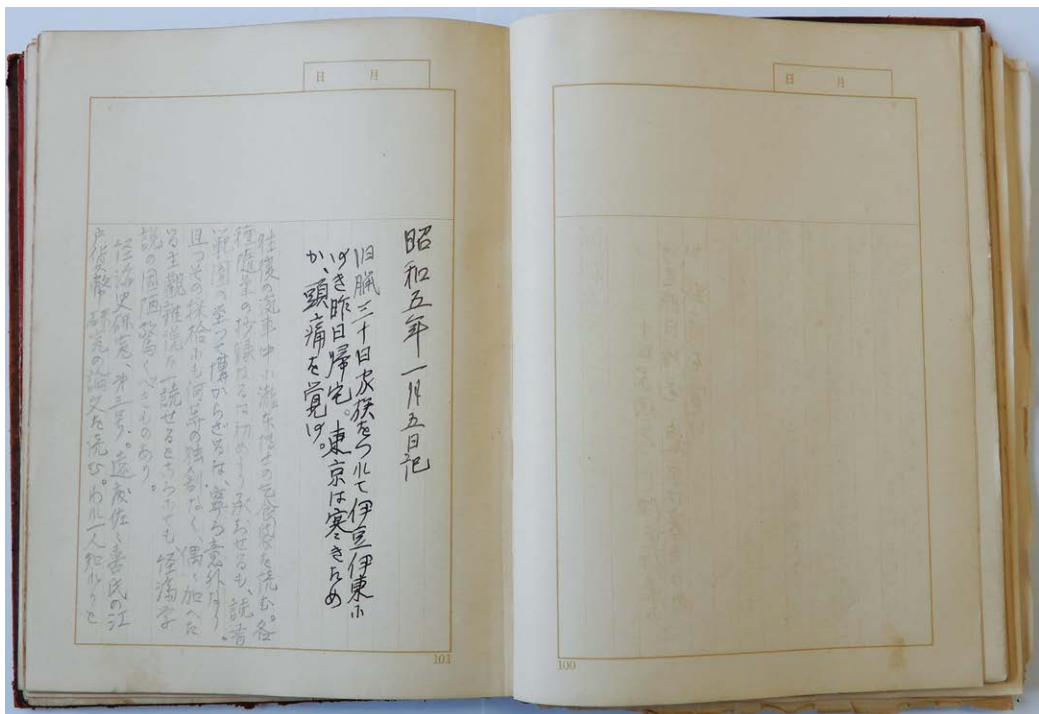
日記用紙にはノンブル（「1」～「272」）が印刷されている。ノンブルに注目すると、各所にページの欠落のあることが確認できる。欠落箇所は、ノンブル「39」～「60」「85」～「92」「95」～「96」「117」～「118」「123」～「124」「175」～「176」「181」～「188」「191」～「192」「207」～「208」「211」～「212」「219」～「220」「241」～「244」の部分である。これらの欠落箇所のうち、ノンブル「85・86」「183・184」「185・186」の用紙3枚は、本体に挟み込まれる形で現存している。またまった分量の用紙が欠落している箇所の前後では、記載される日記の日付も離れているが、日記を記載したページを後から何らかの理由で破棄したものか、あるいは別の用途に使用したページを切り取ったのちに日記を再開させたものか、判然としない。一方、2ページ（用紙1枚）ないし4ページ（用紙2枚）の欠落箇所では、その前後の記事が連続しており、書き損じたページを破棄して書き直しをしたものと推察される。

凡例

- ・漢字は、原則として通行の字体に改めた。
- ・変体仮名や合字などは、通行の仮名字体に改めた。
- ・仮名遣いは、原則として底本の表記に従う。
- ・明らかに濁点を必要とする場合は補った。
- ・明らかな脱字は、適切な語句を本文行で「」の中に補った。
- ・見出しの日付が記されていない場合は、「」の中に補った。
- ・明らかな誤記は、ルビ行に（ママ）と傍記した。ただし、日付の誤りは訂正した。
- ・底本の振り仮名は、そのまま翻刻した。
- ・字下げや句読点は底本ママとし、翻刻者が補わないこととする。
- ・底本に加筆や修正が施されている場合は、それを反映した。
- ・判読不能の箇所は、□□で示した。
- ・日記以外の要素（研究メモ等）を日付の記載なく記している場合は、翻刻の対象外とした。同様の挟み物類も除外した。
- ・本稿巻末に人名索引を附した。

〔附記〕

本稿は、星槎グループ「眞山青果蔵書研究助成事業」による研究成果の一部である。また、画像の撮影ならびに掲載について、星槎ラボラトリーより御高配を賜った。記して感謝申し上げます。



〔昭和四年・五年日記〕 本文（昭和5年1月5日）

翻刻

昭和五年一月五日記

旧臘三十日家族をつれて伊豆伊東にゆき昨日帰宅。東京は寒きためか、頭痛を覚ゆ。

往復の汽車中に滝本博士の乞食袋を読む。各種隨筆の抄録なるは初めより承知せるも、読書範圍の至つて博からざるは、寧ろ意外なり。且つその採拾にも何等の独創なく、偶々加へたる主観雜説を一読せるところにても、経済学説の固陋驚くべきものあり。

経済史研究、第三号。遠藤佐々喜氏の江戸貨幣研究の論文を読む。われ一人知れりと云はぬばかりの態度、やゝ厭ふべし。中に算法智恵袋大全をひいて、西鶴の「金の仕掛け」「銭の仕掛け。」などを解説す。定めて後來の西鶴註釈業者の定説となりて世をあやまるものなるべし。

相模大根の沢庵漬。二十年前のやうなるものなし。

初島の海苔。肉あつくごそつくと□も、香氣ありてよし。淡水の質あしきためもあるべし。

天城の猪肉。今年の初獵なりといふ。

高橋彦衛君家に帰りて温泉宿をいとなむと云ふ。去年十一月の大火にて類焼し目下新築中なり。訪ねたれども立退先不明にて会はず。

伊東滞在中古今算法記、算法闕疑抄などによりてソロバンの稽古を初む。ねツから駄目なり。数日苦んで八算の割り声を暗記なし得ぬなり。

(以上五日午前記)

(一月六日)

五日の來訪者。鈴木氏亨君。綿谷雪君(西鶴人名辞典編輯の打合せ、一代男卷一―六迄持参) 上州より中島の老母、東京移住の相談なり。珠算勉強。

耳鳴る。和田君の脚本村の選挙第一幕を読む。

頭痛は寒気のためか。今日より初めて毛糸の頭巾をかぶる。せつ子今晚吐逆。胃病なるべし。(以上。六日)

(一月七日)

朝寒し。襟巻をかぶりたるに頭痛やゝおこたる。やはり寒気のためなりしなり。この頃日々にわが体のことを知るやうになれり。健康にまかせて、余りにわが肉体に注意せざりしなり。

上州の中島老母、午前十一時半の汽車にて帰る。昨夜四郎君を呼びて東京移住のことなど相談す。

国語国文学の研究に佐藤鶴吉君の織留講義出づ。相変らずの誤解ぶり、西鶴を流すものなり。

珠算けい古。

九日

午後帝大稲田内科に入院す。一ノ側七号。赤木博士の周旋なり。和田君、零一送來る。

夜睡眠剤を服用せずして就寝。七時間ほど眠る。

受持医、藤井博士。

十日

晴。午前いね来る。

午後ヒゲを剃る。入浴。黒川一君、村田式部君来る。夜、日本橋大誠主

人伊佐翁書翰をもち来訪。あんこう鍋一折。

徳川時代警察沿革誌を読む。

六時間ほど眠る。

十一日

快晴。金解禁の日。

午前和田君書籍をもち来る。

今日回診日にあらざるも稲田博士来り訪はる。診察はなく、当分病院で

ユツクリ休まれよとて笑ふて帰る。

夕方、いね来る。この夜七時間ほど眠る。

十二日

朝より雪ふる。後、晴る。

耳なりや、忘る。私可多咄卷の一、第三説。

みよ子等今日来らぬ由電話なり。

ひる頃、零一来る。買物などいひつく。午後惰眠。

夕方いね、おでんを持来る。晩飯の間に合はず。

綿谷君来る。看護婦猪野サン、田舎より叔父来るとて外出す。綿谷君、九時頃まで話して帰る。

この夜初めて睡眠剤のむ。七時間ほど睡る。

この日よりマツサアジ初む。

十三日

朝体量はかる。五十二キロ三百五十何々となり。(着衣、サルマタ、毛

皮タビ、ドテラ、広袖ゆかた、帯)

午後和田君来る。遊佐、（マユ）顛原、清水、志波諸君へ書状代筆。

藤井先生、血液検査あり。夜九時就寝。

十四日

晴。昨夜七時間ほど眠る。藤井主任来診。

十二時頃稲田博士回診。今回初めての診察をうく、気分爽快。午後和田

君来る。旧稿改訂の業に従ふ。ふと思立ちて小児等を見に家に帰る。み

な壮健なり。自宅にて便通あり。四時過ぎ零一みほ子に送られて帰院す。

スシなど共に食ふ。九時就眠。疲労あり。ねむり薬のむ。

この夜蒸気あつし。

十五日

快晴。この朝、ヅキリ二回、ピリ、三回、何んとなく不安を感じず。朝

牛乳をやめて国木田夫人に送られしスープを試む。甚だよろし。

血圧をはかる。低し。

昼、松島のかき到着。それにて昼食す。

和田君来る。綿谷君来る。一浴。

村田式部君来る。伊藤喜朔君来る。二月演舞場の舞台装置のためなり。

夜大垣のほし柿半分、イチゴ少々。九時就眠。

十六日

よく眠らず、暁四時頃目覚め後うとくする。

午前貞丈雑記を読む。第三回精査。巻五終る、

今日や、眼鏡に堪へる心地す。一時間ほどかけてさほど苦痛なし。耳鳴も去る。

午後和田来る。旧稿訂正の気力なし。後おいね来る。黒川君のことその他を云付く。晩飯の後藤井昇君来る。来月の演舞場へ出演したしとなり。

零一来る。卒業後の方針など相談す。彼も相応に着実なる思考を有するもの、如し。

この夜睡れず、ねむり薬のむ。菓子を喰過たり。

十七日

よく眠らず。曇のち晴。

午前西鶴永代蔵三の一精査。マッサージ約四十分。

清水省三君来書。

午前診察なし。眼鏡一時間半ほどかくる。苦痛なし。

この頃の食餌

朝。焼パン二片（半斤を三回）にバターをつけ、又はハムを二三片。牛乳を一合。（又はスープ）

昼。野菜煮一皿。カキなど醋にて一皿。スープに半熟卵子。飯二椀。

夜。煮魚又は焼魚一皿。スープ半熟卵子。野菜など一皿。飯二椀。

午後二三時頃、餅菓子二ヶ位、間食。

夜七八時。果実少々、せんべいなど。

以上

午後便所にて眼鏡の玉をわる。丁度来りし和田君に頼みて修繕にやる。

小森の姉弟来る。丸万のすき焼もらふ。菊池武継君来る。入浴。

この夜よく眠る。

十八日 曇。

心地よし。昨日快便ありしたためなるべし。洗面所に出て顔を洗ふ。試に

入院中の毎日の課定を定む。

午前

旧稿脚本訂正 約五枚。

午後

永代蔵精査日に一章。

但シ人名辞典、地名辞典ヲ作成スルコト。索引頭書。

読書一時間。

日本経済大典三読精査右ハ索引及抄出ヲ記入怠ラザルコト——以上

マッサアジの機能が、頸筋の凝りほどける。

午後いね来る。和田君来る。昨日菊池君の話を思出して、零一を呼寄す。午前二時間、午後二時間めがねをかけて読書すれど格別甚しき疲労を覚え。四時頃零一來る。ついで和田君につれられてみほ子来る。久し振りに下駄をはきて出る。二門町より池の端に出て、弁天社を通り、揚出しにて晩飯。帰路小児等病院まで送り来る。

十九日 晴

今日は日曜なれば、附添の者に朝寝させんと思ひながら生憎四時頃より目覚む。諸事常例。

三時間ほど目鏡をかけて永代蔵を精査。目ひどく疲れず。

綿谷君、中根君にハガキを書く。

耳なり殆んどなし。この分ならば或は年来研究の課業を完成なし得るやも知れず。されど徂徠研究までは前途遠し。西鶴ぐらゐにて終るか、それにもよるし。

午後和田君来る。散歩ながら吐鳳堂に杏林叢書を求めにゆく。ふと思立ちて円タクにて家に帰り茶など飲み、三時頃病院にもどり来る。

一浴。

鈴木氏亨君、銀座丸見屋の重話をもちて見舞はる。

二十日 晴

暁四時より目覚む。

朝、体重五十三キロ一〇〇。(着物。赤縞ドテラ、広袖ユカタ、サルマタ、毛糸縞バン、足袋(カバア右二、左一)スリッパ、頭巾なし、帯チリメ(ンしごき))

午前。永代蔵一ノ二、人名辞典作成。二三日来胃痛の気味ゆゑ朝パンをやめて牛乳だけとなし、昼粥食。サシミ及半熟卵。

午後、髭そる。藤井先生来診。血行状態の検査あり。ゴムを足部に纏ふて五分間血行をとむるなり。可なり疼痛あり。序に血圧検査あり。左腕百〇七、右腕百なりと云ふ。(左腕入院以来の血圧数は百十、百〇三、百なりとか云ふ)

いね来る。入院料支払のためなり。

藤井昇君来る。読書、虎溪の橋、十百韻など。

二十一日 快晴

大寒の入り日。五時頃目覚む。午前旧稿訂正。

稲田博士回診。

午後、快晴に乗じて本郷通正門前まで散歩。古本屋など探す。和田君来る。小栗儀造氏。

菊池武継君宛の代筆たのむ。

藤井昇君来る。綿谷君来る。七時過まで話して帰る。

九時就眠。

この日議會解散。

二十二日 快晴、寒し。

午前五時目覚む。七時起床。

旧稿訂正七八枚。

井上正夫君来る。大谷氏全快の由なり。先づ安心。

今日より昼夜とも粥食となしてみる。少し胃痛の気味ある故なり。

午後、和田君来る。

この夜多量に便通あり。

二十三日 快晴

四時目ざむ。午前旧稿訂正六枚。

帝劇宇野四郎君来る。

黒川君、いね来る。黒川君は大谷氏使者なり。

午後、和田君来る。零一來る。一浴。

夜、国木田夫人見舞はる。

二十四日

朝五時半目ざむ。昨夜は快く眠る。俳人紫暁のうき草日記(寛政八年四月、

長崎紀行)読む。長崎端午の競船バイロン、佐賀の石像の蛭子、籠島島がらすの

ことなどあり。

旧稿訂正五枚。

午飯を終り上圍。円タクにて家にゆく。白石慶三未亡人来りてあり。三

時半病院に戻る。

菊池武継君、零一のために相談に来りてくれる。

午後九時就寝。この日試に夕食に天井を半分ほど食す。夜や、胃痛の気味あり。

二十五日

午前旧稿唐人お吉改訂。二十五枚。雑誌現代に送るためなり。

午後読書。喜田博士の新著日向国史古代篇。

和田君来る。国木田のみどりさん、河合武雄君来訪。一浴。

夜、綿谷君来る。

二十六日

昨夜睡眠剤をのみて七時間ほど眠る。午前唐人お吉の訂正、三十五枚。

今日より粥食。昨日普通の飯をこゝろみたれど、やはり結果あし、生

卵一箇

午後和田君来る。いね、小児等つれて来る。

唐人お吉、第一第二の校訂を終りて渡す。子ども等すしなど食して帰る。

二十七日 晴。

昨夜七時間ほど眠る。体量五十三キロ五〇。

家よりふみ来る。原稿渡す。

午後訪問客なく、空寂として暮す。入浴。

九時就寝。

二十八日 晴。

四時より目ざむ。昨日来便通なし。

稲田教授回診。

ふみスープを持来る。

午後零一来る。受験の話などしるる処へ和田君来る。講談社の稿料うけ取来る。

三貨図彙物価の条拾読す。

午前午後にて五時間程読書したれど甚しき疲労なし。

夕方吉野作造君より見舞の使来る。

今晚より夕食をパンにして見る。スープ、ピフテキ、ミカン一箇
午後九時就眠、眠薬をのむ。

二十九日 昨夜雨ふる。

午前三時半より目ざむ。永代蔵を精査。

昼飯前おいね来る。シウマイ持来る。月払のことなど云付く。

便秘のためか頭痛の気味なり。

午後喜田博士の日向国史など読む。村田式部来る。入浴。

佐藤充君。(伊達家々扶) 見舞はる。

夕食パン、スープ、シチュウ、ミカン一箇、

午後九時就寝。

三十日 快晴

昨夜胃痛の気味にて一二度目覚む。そのため五時半頃まで眠る。今日の苦労はたゞ秘結と睡眠のみなり。読書も二時間以上つゞくなり。

午食前ふみ来る。

午後回診後、家にゆく。二時間ほど日向ぼっこして病院へ戻る。その留守中佐藤君よりソーセイヂその他小包とゞき来る。それと野菜サラダにて夕食おはる。

九時就眠。十一時、眠剤をのむ。

この日旧暦の元日なりと云ふ。

三十一日 晴

六時半まで眠る。何んとなく頭重し。今日より入浴午前になりたれど、不安を感じる故午後後にのばす。

昨夜大腿部(右)に冷却を覚ゆ。外出して寒気にあたりしたためか。

ふみ来る。正午前伊豆村松先生見舞のためとて上京せらる。好意謝するの辞なし。

午後綿谷君来る。藤井子来る。和田来る。

和田君を労して神田巖松堂にて住田学士海事業談を購ふ、見ればなんでもなき本なり。

晩食のところへ零一来る。病院の洋食をとりて帰る。

今朝来何んとなく気力消耗の感あり。血圧をはかるに左右ともに九十台なり。

午後九時就眠。かなりよく眠る。

二月一日 晴。後しぐれ模様。

暁五時過ぎ目ざむ。時計とまれり。

午前唐人お吉、第三ノ一、二十七枚添削。

十一時頃、おいね、幼児つれ来る。小児等にはすしサンドウキツチなど
与へ、フノリの味噌汁にて昼飯をとる。甚だよし。(仙台升沢の送品)

住田氏海事叢談読む。

夕方。日本橋大誠より使来り、ヨセ鍋一折送らる。

雨、本降りとなる。川柳雑誌シヤチホコ大正十五年分読む。

九時就眠。

二日

夜来雪ふる。

午前和田君来る。昨夜の演舞場にて井上君の江藤新平好評なりといふ。

自分にて髻そる。

便通大量、甚だよろし。入浴。後少し眠る。

夜川柳シヤチホコを読む。

午後九時就眠。

この日京都横沢君より伏見町誌及常々草浄書送り来る。

三日

午前五時目ざむ。この日旧節分なり。

体重又少しへる。五二六五〇

ちよ来る。血圧をはかる。

午後和田君来る。後一睡す。

露伴氏炭俵抄をよむ。啓発せらるゝところ二三にして足らず。たゞ古註

を破せんとして、我執におちたるところ多きを惜む。

かるき風邪の気味。九時就眠。十時過ねむり薬のむ。

四日

五時目ざむ。晴。

体量へる故に今日より食物の量をふやしみる。

朝は茶の後、牛乳一合に卵黄二箇をとることゝす。

稲田教授回診。語をあらためて禁酒をすゝめらる。

昼、味噌汁、チキンライス。

午後家に帰りて見る。小松川のとみを泊りるる

綿谷君来合はす。日向にねころび、後書斎の火閣にて一時間ほど眠る。

薄暮、本郷三丁目より歩みて病院に帰る。今夕より薬かはる。

九時就寝十一時まで眠らず。

五日 晴後曇

頭痛の気味、耳鳴る。枕をひくゝしてみる。

午前旧稿訂正十枚ほど。

いね来る。

午後大誠主人来る。例により長話。入浴しかねる。

京都^(京都) 頼原君より心葉到着。

夜九時就寝よく眠る。

六日

大雪、四五寸つもる。風あり。家にありての眺望など思ふ。午前入浴。昼食後ふみ来る。

午飯後小睡。福井庄三郎君来訪。二時間ほど話して帰る。

今日初めて注射を試む。夕方和田来る。黒川君まだ大阪より帰らざる由、国木田虎雄君、仮名屋小梅の映画の件にて来りし由。

午後九時就寝。よく眠る。

七日 快晴

旧稿訂正。唐人お吉、第三幕終る。

ふみ原稿とりに来る。和田英松博士より新著芸備の学者を送らる。

午後、露伴氏続猿蓑折^(猿蓑)を読む。

四時頃村松翁来訪。ついで和田君来る。

スチーム来らず寒し。

読書。午後九時就寝。この日も注射す。

八日 快晴

昨夜よく眠る。旧稿訂正(宝石地獄第三)

午後家より誰も来らず。注射。

午後二時過、和田君来る。銀行の帰途なり。いね、小児等をつれ来る。

山口剛君令閨及かよ子さんと共に来る。綿谷君来る。談話につかれてウトウトしるる処へ大誠主人来る。

この日、晩食にテツカ井を食ふ。

シヤチホコ綴込を読み午後九時就寝。眠り得ぬため便所に行き十時半ねむり薬のむ。

十日 小雨、寒し

体重五三キロ六百余。前回より一キロほど多し。

この頃の注射のためか、患部の冷却すくなく夜はカバアをはずして眠るほどなり。頭痛も忘れたるほどなれど耳鳴は時々あり。一浴。

正午頃零一来る。昨日の全国蹴球中学大会に優勝旗を得たるとか云ふ。

村田式部君の弟子某、演舞場の切符をもち来る。

午後和田君来る。大誠主人来る。金談を持ちかけられて閉口す。

稲田博士明日休日を繰上げて今日回診す。酒のことにて冷やかさる。今日わが症歴臨床講義に出たる由なり。

午後九時就寝。十一時頃眠剤をのむ。

〔頭書〕 九日、後につゞく

九日 小雨

日曜日にて閑静なり。いね来る。昨夜ねむり薬のみたるためか、や、頭重し。旧稿訂正三四枚。

いね来る。

午後藤井昇君来る。井上宗助君来る。

シヤチホコ、昭和三四年度一読了

九時就寝。

十一日 朝、晴模様。後晴る。

六時まで眠る。

午前和田君に来てもらつて、大誠の方をことはり頼む序に文房具買入たのむ。

ふみ来る。

午後和田君と共に家に帰る。こたつに入りて一睡。零一の帰宅を待ち家族をつれて神楽坂川鉄にゆき酒を少し試む。帰途江戸源へ行けば休業、しの、めに寄りて又一二本飲む。風つよく、寒し。九時頃、零一みほ子に送られ病院に帰り、グッスリ眠る。

十二日 快晴

少し頭痛あり。入浴、髭そる。

午前無事、読書

午後遊佐喜一來る。和田君来る。村田式部来る。ちよ来る。

四時、和田君、村田君猪野さんと共に演舞場をみに行く。途中松竹へ廻りて大谷氏と面談。三月の明治、帝劇女優脚本の事など打合せする。

寒風のなかを徒歩して芝居に行き、中幕のみを見る。例により井上君の

熱演、先づ上出来の方なり。八百蔵と云ふ役者初めて見たるが、思つたよりはよくしてゐたり。帰途村田藤井などをつれて銀座大新にて晚餐。ビール三本。十時過帰る。しやべらずに寝る。

十三日 快晴

今日より又順良なる患者となるつもりなり。酒はやはり後が悪い。尿にごる。和田英松博士へ礼状を出す。

午後ちよ来る。和田君来る。綿谷君来る。五月のぶ子とか云ふ女優の事務員来る。叱りて帰らす。

夜、川柳雑誌よのころを読む。創刊以来の綴込、得るところ殆んどなし。夜石橋のうなぎを取りてみる。

九時就寝。十一時頃睡眠剤をのむ。

十四日 晴快

二日やすみたる注射。(亜硝酸ソーダ) 今日より分量をふやす。入浴。いね来る。麦飯もち来る。うまし。中津川清水君より伊予蒲鉾送り来る。

午後藤井昇君来る。病院看護婦等に招待券切符持来りしなり。

川柳雑誌乱読す。

午後九時就寝。よく眠る。

十五日快晴

午前中の事例の如し。心臓部をレントゲン映写。後、家にゆく。こたつ

に入りて一睡。和田、零一に送られて蕎麦を食す。ビール二本。八時の
体検終りて零一帰宅す。

九時就寝、この日中垣さん等芝居にゆく。

外出中植木商会よりボケの鉢植とゞきみる。

十六日 晴。

日曜日にて閑寂を極む。朝ふみ、京都発喜多村緑郎君電報持ち来る。

読書して小児等の来るを待つ。来らず。電話にてこはり来る。

午後四時前ふと思立ちて森川町徳田秋声君訪問。一時間ほど話して帰る。

午後九時就寝。

十七日 晴

朝体重をはかる。五十四キロ七百あり。尤も上圍前なり。浴後ひげをそる。

村松翁より来書。お吉キネマの事なり。いねに書面書いて黒川に通ず。

回診の時血圧をはかる。例の如し。

ちよ来る。

午後綿谷君西鶴の人名調査（二代女後半）と川柳雑誌よのころ持参。

黒川君来りて諸事相談す。この頃来心配せることわが杞憂なりし如し。

可悦可喜。

ぼけのつばみふくらむ。

十八日 晴

朝の行事常の如し。和田英松先生見舞はる。

この日総回診あり。レントゲン写真を示され心臓も別条なしと云はる。

いね、今日は幼稚園やすみなりとて女兒二人をつれて来る。サンドウキッ

チなどとりて小児等と共に昼飯す。

午後一睡。川柳よのころを読む。下田村松氏、小原敏丸氏へ書面出す。

午後九時、ねむり薬のむ。十一時まで眠らず。

この日注射なし。夜、赤木博士見舞はる。酒のことなど話あり。

十九日 晴

ぼけのつばみ急にふくらむ。午前行事常の如し。今日より注射中止。

ふみ来る。

午後和田来る。第一書房某君来る。第一書房某君来る。松竹より巖谷

三二君、富岡先生の打合に来る。夜七時過零一来る。山口君訪問の模様

など聞く。

ねむり薬服用せず。

二十日 快晴。

ボケの花ひらく。昨夜はよく眠りたり。やはり昼寝はやめる方よろし。

午前閑暇。午食強めし。

午後家に帰る。松本賛吉君来る。総選挙の日なれど市中静穏。五時頃、

零一と共に病院にもどる。不在中大東鬼城君来りし由。又小原敏丸君よ

り返書あり、西鶴本翻刻について快諾あり、悦ぶべし。

零一と夕食を共にし、九時就寝。

二十一日 朝曇る。

昨夜や、頭痛を覚ゆ。目下のところ諸症減退して平常とかはらざれど、患部に発汗多きと軽微の耳鳴ることありて去らず。二時間読書すれば頭痛を覚ゆ。

いね来る。零一早稲田入学のことなど相談す。

後一時頃村田式部妻女切花など持ち来る。二時過ぎ黒川君来る。本年二月迄の松竹及帝キネの計算をすましてその総額をうけとる。その金を渡すべく直ちに帰宅。五時頃零一をつれて演舞場にゆく。帰途藤井子をつけて銀座大新に立寄る。ビール二本。午前二時過ぎ目ざむ。脈搏百近く苦し。シミ、酒の害毒を知る。反省々々

この日総選挙の結果一部発表。市中さゞめく。

二十二日 曇

ボケの花満開なり。新聞をまち選挙の結果、など見る。内ヶ崎作三郎君落選。和田、かねて托せる胸算用脚色の筋書を見せに来る。昨夜のこと思ふて恥入る。

ちよ来る。昼、かゆを食す。

午後静かに読書。松竹黒川君より乃木將軍の戯曲につき相談あり、自身電話に出る。

和田君、図書館の帰途又立寄る。乃木伝二冊かり来る。

夜ねむり薬のむ

二十三日 朝曇後晴。日曜日。

一浴。いね、小児二人をつれて来る。のり巻ずし持参。小児等サンドウキッチをよるこぶ。和田君来る。緩談して清水君の来るを待つ。来らず。よく考ふればわが間違にて清水君の通知は二十四日なり。零一來る。和田君をも誘ふて本郷座横の石橋にて夕食す。七時帰る。九時ねむり薬のむ。

二十四日 曇

体重五十四キロなり。着衣を脱してはかり見るに一キロ九百あり。正味五十二キロほどなり。(正味十三貫八百七十匁)連日寝汗の気味あるにつき、昨夜被物を少し減じ見る。甚だよろし。午前課業常の如し。ちよ来る。横沢君より本朝文選通釈とゞく。ほげの花さかり過ぎたり。

午後和田君来る。清水省三君中津川より来訪。徳田秋声氏来訪。村田式部君来る。長談話や、疲労す。稲田先生見舞はる。

夜、パン、スूप、ピフテキ、ミカン。各地に地震あり。今村博士関西大地震の憂あるを云ふと報知に見ゆ。

二十五日 晴快、

頃日春暖四月のごとし。午前つねの如し、但シ総回診なり。ふみ来る。午後松竹黒川君より電話、乃木將軍のこと。松原伝五君来訪、綿谷君来る。

後横沢君、和田君来る。永代蔵のことなど打合す。和田君は清水君接待のため演舞場にゆく。

晩景、大平野虹君来る。七時頃帰る。

ねむり葉のむ。

二十六日 晴。

この頃夜寝つき大腿部(右方)冷却、冷汗あり。小雨閑散。ふみ来る。

午後惰眠をむさぼる。

夜、病院の定食(洋式)といふものを取りてみる。

七時頃鈴木氏亨君、寺木君伊藤清君、ミナ川トーキイ社長の三人をつれ来る。例の仮名屋小梅の話なり。快談のうち解決して八時頃、帰去る。熱三十七度にいたると云ふ。蓋し興奮のためにあらず、この頃や、体温上昇の傾向あり。常人に復するためか。一笑。

二十七日 小雪ふる。

昨夜ねむり葉のむ。一浴。

午前いね来る。ボタ餅なり。

午後和田君来る。横沢君風邪の由。今日は終日と、としてたゞ睡し。本も読まず幾度かねむる。村松氏に打合せて明日明治座の舞台稽古見物を約す。夜和田君来る。志波生の書面を持参せるなり。

二十八日 小雨

午前常のごとし。ふみ来る。

午後和田君来る。清水君来る。村松先生来る。

猪野さんも連れて明治座富岡先生稽古を見にゆく。三時すぎ序幕にかゝる。大谷社長に面会。四月の井上君について相談。場所は新、歌舞伎なるべし。黒川君立会ふ。七時過ぎ浪花町浪花といふ家に立寄りて晩食。清黒両君は酒をのみたれど、ひとりサイダアにて飯を食ふ。十時病院へ帰る。和田君村松翁を送りゆく。

三月一日 晴

今日は大学記念日にて休日。一浴。

西鶴随筆など書く。ふみ来る。午後和田君来る。共に家へ帰る。黒川君病院を廻りて家の方へ来る。村松翁に唐人お吉映画謝礼の報告の為めなり。

夜食を横沢君等と共にして午後七時病院へ帰る。零一、みほ子送り来る。

寝台にのぼればや、疲労の気持あり。

午後九時就眠。

二日 朝ぐもり

日曜日ゆゑ閑散なり。頭痛を覚ゆ。尾崎久弥君より来書、餓死云々と窮状を訴へて援助を求め来る。彼の人とは二三度面話せるだけにて何んの交際なき人(清水君の友人故知りたるなり)なれども事情を聞けば気の毒なり。何んとかならぬものかと床上いろく考ふ。兎に角、返事を出

して来訪を求む。

午前十時横沢君和田君来る西鶴輪講三卷一、煎じやう常(ツマ)にかはる問薬一章終る。

午後、疲労甚し、一睡。

午後四時尾崎君来る。いろ、事實を聞く。細君ヂフテリヤにて重症なる由、重ね、不幸なり。聞きたる処にては国学院大学の処置、折口君及改造社広田君の態度甚だ冷酷のやうなれど、或は尾崎君の方にも反省すべきものあるにあらずや。話のまゝにはチョツと受取れざるなり。和田又来る。小原敏丸君来り見舞はる。緩話二時間ほど、や、疲る。

頭痛ありて気分すぐれず。床上仰臥、課業のことなど考ふ。頃日来全身的の倦怠違和を覚え、病症は一局部にあらざる心地するなり。頭蓋窩中の血行何んとなく不安を感じるなり。

この日喜多村緑郎君代理として若井某君来る。

夜十時眠剤をのむ。

三日 小雨

気分おもく憂鬱なり。体量五三キロ六五〇に減ず。(排便前なり)今日 は節句ゆゑ家に帰りて小児等をよろこばしたけれど、その気力なし。

藤井博士回診。感冒のためにあらずやとてその薬を投ぜらる。

午後、和田君来る。乃木將軍のことなど打合せする。頭痛ありて気分重し。薬のためにや発汗多し。

食欲減退、やつとパン三片を食す。

夕刻よりや、気分よく、雑談などなす。十時半ねむり薬をのむ。

発汗あり。たゞ右半身に多くして左方はそれ程のことなきは不快なり。大腿部冷却。

この日綿谷君来訪、心葉浄書を持参す。

玉子二十数箇恵まる。

四日 朝ぐもり、小雨。

頭痛。今日回診なれど稲田先生事故ありて坂口博士なり。

午後、和田来り、零一君来る。

零一は赤木博士の診断をうくるためなり。佐藤鶴吉氏来訪。声音かすれて咽いたし。解熱剤などのむ

午後十時、ねむり薬のむ。

五日 小雨

頭痛、気分すぐれず。朝の茶まづし。

藤井先生回診風邪ならんと云ふ。新聞を読みても頭痛す。食欲なく、卵黄牛乳ともにやめる。

ちよ、イナリずし持来る。おいねも頭痛の気味ある由。午後和田君来る。

上圍後痔出血あり。一睡後、黒川君来訪。乃木將軍のことなど相談す。

横沢君来る。又一睡。

夜、和田君を呼び雑話。気分や、まぎれる。

食パン二片 スープ半碗すゝる。

九時就寝。眠剤。

六日 小雨、雪を交ふるか。

午前気分よろし。マッサージ小野さん来り、共同印刷の火事の話聞く。ふみ来る。

午後懶臥。藤井昇親子見舞はる。ソバ屋大村の皿二枚もらふ。震災前のものは一枚もなしと云ふ。

和田君来る。零一某医院には診察をうけしに肺炎に異状ありと云ふ。心得ぬ事なり。大学にては赤木博士の診察をうけレントゲン検査の結果別状なしと云ふ。食欲すゝまず。風(かぜ)ぐすりのむ。夜新聞を読むものうし。九時ねむり薬のみて眠る。

七日 小雨、雪まじる。

身体ふらつき気分すぐれず。午前中よりうとく眠る。ちよ来る。午後、和田君来る。食欲なし、サンドウキッチにて昼をすます。後強飯を食ふ。夜横沢君来る。

八日 小雨。

午前、家より誰も来らず。食慾なくたゞねむし。午後、和田君来るも夢うつゝなり。病的にねむりつゞける。目覚むれば頭いたし。

九日 小雨、後はれ模様。

気分や、よろし。東京大学諸教授の芭蕉俳諧研究など読む。饒舌に過ぎて研究足らず。ひる頃家母、零一、みほ子をつれ来る。ひげを剃る。

三田村鳶魚氏来訪。村田式部君来る。和田君を神田に走らせて幸田露伴氏のひさご猿蓑抄をもとむ

大平野虹君来訪。

高橋菊三郎先生来訪。

夕方ふと思ひ立ち本郷座にゆき、塩原多助二幕見る。帰途ヤブ蕎麦にまはる。

十日 晴模様。

体重(ご)五キロ七百あり。この頃来の食慾不振にしては意外なり。午前行事常の如し。露伴氏の俳諧抄読む。ふみ来る。

午後綿谷君来る。今日学校卒業の由。和田君来る。和田、猪野さん連れて明治座に行き富岡先生を見る。帰途上野山下揚出しにまはりて晩食。九時病院に帰る。眠剤なく眠る。

この留守に大原とか云ふ人尋ね来りたるよし。

カラスミ、鮎のウルカ様のもの看護室に托しあり。

十一日 快晴。

昨朝より朝の見眩(くら)しきほど室内にさし入る。今日総回診なり。朝茶や、うまし。

赤木先生総回診のあとに残りて右踝動脈を検しや、脈搏ふるゝ心地すと

云はる。

午後閑散。来訪者もなし。夕刻和田君来る。分家某来りゐるとて急ぎ帰る。零一来る。仙台行の事など打合せ晩飯を共にして八時頃帰る。

午後三時頃中島四郎君来る。上州の事ユタカ君入学の事など聞く。眠剤をのむ。

十二日 快晴、麗日。

午前行事常の如し。

正午近く和田君家族来る。

奈良粥を煮るため也。

午後家に帰りて書齋にて一睡す。松竹大谷氏電話あり。横沢君と西鶴など講説す。

晩食後、零一に送られて病院へ帰る。零一明後朝仙台へ受験のため帰省。

十三日 微雨後豪雨あり。

午前行事常の如し。いね、ふみをつれて来る。

零一帰仙の事など話す。

午後、村松先生令息来訪。お吉墓石柵（大谷氏寄附）の相談などあり。メロンを恵まる。

午後四時松竹訪問大谷社長と面談、五月の脚本の話などあり。帰途明治座に立寄り、それより急に思立ちて帝劇に行き二幕ほど義理見なり。

村田式部和田等と神楽坂江戸源へ廻りて晩飯。

十時病院に帰る。眠剤のむ。

十四日 快晴

入浴。その他は常の如し。ちよと共に国木田夫人来る。富岡先生上演につき相談あり、来院を求めたるなり。

午後一睡せんとする時、治子さん十軒店の稲荷ずしを購来る。戯れに食べたしと云ふを聞いて、ワザ／＼買に行きたるなり。

横沢君来る。顛原君のこゝろ葉外一冊を返して、西鶴の雑話をなしゆく。夜治子さん来訪。とゞくべき筈の上演料まだ松竹より届かず。

九時、就眠。ねむりの薬のまず。

この日朝、零一仙台へ出発の由電話あり。

十五日 晴日。後、時々小雨。

午前回診もなし。無聊なり。十時過黒川君来る。国木田の原稿料持参。夫人の現状を話して追加を求む。

午後家に帰る。治子さんに来てゐる金を渡す。書齋にて一睡。後横沢君等と話す。

晩めしを終り八時頃病院に帰る。眠剤。

この日老母成田参詣の由、零一もみぬため家内さびし。

十六日 快晴

日曜日にて閑散なり。家より誰も来ず、来訪者もなし。

夜八時頃よりウト、として眠り、遂にそのまゝ、暁の四時頃に覚む。
眠剤を用ひず。

十七日 快晴なり。

体重五三キロ九百なり。

ちよ、彼岸のぼた餅持参。

午後和田君立寄る。眼科にゆき眼底検査をうけ眼鏡の度を合はす。結膜
炎ありと云ふ。(中原博士診察)その帰途ふと思付いて家に帰る。
横沢君等と話し晚めしを共にして八時病院に帰る。

十八日 晴。

総回診なり。右足患部を追々露出する習慣をつくべしと云はる。

午後一浴一睡。和田君来る。約束の乃木伝やれさうもなし。家に電話を
かけ夕方より小児二人及びいねを呼ぶ。国木田夫人及其孫同道して来る。
上野清水辺を逍遙し、揚出しに入りて小児らをよろこばす。
八時帰院、眠剤なくて眠る。

十九日 小雨

午前五時覚む。

午飯時、佐藤充君来訪。ふと思出して帰宅す。

上州より中島老母来りゐる。一睡。

夕方より和田君横沢君を誘つて徒歩、本郷三丁目の藪ソバに入り又病院

まで歩む。

九時就寝。眠りがたし。

十一時眠剤のむ。

二十日 薄曇。後雨。

睡眠不足、頭おもし。ちよ来る。

午後綿谷君来る。和田君来る。共に明治座にゆく富岡先生大話のみ見る。
帰途上野丸万にて晚食。

九時就眠。ベロナール。

二十一日 快晴。

休日閑暇。ふみ来る。

午後和田来る。首斬代千両に訂正を加ふ。蜂谷君に渡す。三時頃家に帰
り一睡。いね帝劇に行く。うた子来りゐる。七時頃奈良粥を食して病院
へ帰る。途中玉屋へ立寄り眼鏡をあつらふ。
九時就眠。眠剤なし。

二十二日 快晴。

回診の時病名を問ふ。

正午黒川君来る。藤井六輔君ボケの花をもち来る。和田君来ル。一睡す。
夕飯の時和田再び立寄り佐藤君の永代蔵評釈をとゞけてくれる。

眠剤。

二十三日 快晴 日曜也

佐藤鶴吉君より永代蔵寄贈せらる。

零一今朝仙台より帰りたる由、十一時頃家に帰る。小児等とあそぶ。

綿谷君、病院より廻りて来る。一睡す。大阪よりたつ子来るとて家内ゴタ／＼す。

七時過病院にもどる。ペロナール服用。

この日不在中佐藤鶴吉君来訪。

二十四日 快晴。

体重五十五キロ二千^マほど。(裸体にて五十三キロ三百)

午後和田君来る。講談社の帰りと云ふ。終日、読書。

この日病名を明示さる。右側足背動脈閉塞性内膜炎、(直訳すれば右側足背動脈閉塞性動脈内膜炎)と云ふ。

夜眠剤のみ。たつ子新宿へ行きし由電話あり。

二十五日 朝小雨。

体重をはかりなほすに五四キロ三〇〇なり。昨日より減じたるは朝茶の重量などを引ききたるためなり。

午前いね、みほ子をつれて来る。種々雑用を托す。

いね、帰りてみほ子一人遊びある。和田君来る。三時頃電話にてふみを呼び、みほ子を帰す。

高成田忠風君(士官学校教授)来訪。菊五郎君設立の俳優学校に賛助員

たらんことを求むるなり。謝絶。余は十数年来意識的に総ゆる部分に於て現社会組織の構成を悪む。その社会に伍して立つは不快なり。終生隠者として世を終りたし。

今日の午後はねむしく。連日服用の眠剤のためなるか。

午後九時、眠剤なしに眠る。

二十六日 晴

回診休日。復興祭のためなり。

午前十一時家に帰る。零一のことなど気になりしたためなり。昼飯後一睡。

夕方横沢和田の両君零一をつれて散歩に出で、伝通院前より高橋君の車にのり池の端に出る。群集混雑して歩むべからず。揚出しに入りて飯にする。七時過徒歩にて病院へ帰る。

九時就寝、眠剤なし。

この日不在中藤井生来るといふ。

二十七日 朝曇る。

今日は総回診なり。昨夜熟睡、気分よろし。

正午和田君来る。午後二時いね来る。藤井博士に面会して外泊仕事を乞ふ。許可あり。いね和田君は藤井氏の自宅へ礼にゆく。

稲田先生来訪。退院しても差支なかるべしと種々話あり。

藤井六輔君来訪。本郷座に稽古ありと云ふ。

零一より電話、仙台の方駄目なりしと云ふ。

健康のため却つてよろし。急ぐべきことにあらず。

夜九時就寝。眠剤なし。

二十八日 小雨

午前九時頃家に帰る。ミホ子風邪臥床中なり。書斎の炬燵に仰臥して伝西鶴作の好色旅日記（博文館、西鶴全集に入る）を読む。校正疎漏ながら完本を見るはこれが初めてなり。一読忽卒にはかに断定しがたきも、西鶴の文章にはあらず。たゞこの著書と西鶴との間には何等かの交渉関係あるべく、思ふに三代男の著書との間に或る種の脈絡を通ずるやうに思はる。横沢君等と晩飯を共にし八時頃病院に帰る。

この夜ねむれず、十一時頃起きて眠剤をのむ。

二十九日 微雨。寒し。

スチーム来らず。午前、佐藤鶴吉君に永代蔵の応問書など書き、十一時頃家に帰る。書斎に入りて一睡。とみを来る。たつ子夕方帰り来る。皆を相手に話し晩食にすしなど喫す。

この夜家に泊る。十一時近くまで眠り得ず。

この日、横沢君京都へ帰る。

三十日 曇

午前六時半目覚む。十時過零一を丸善へ買物にやる。昼飯奈良粥、午後一時病院へ戻る。昨日来便通なきためか不快なり。零一來りゐる、和田

君来る。

徂徠の政談など読みなほす。頭重し。晩食はパン。ピフテキ一皿九時過ねむる。や、疲労あり。

三十一日

暁五時目覚む。体重五十四キロ。（常例の服装）五十二キロ二百（裸体）なり。但しこの朝も茶を喫したる後なれば、前回は較ぶればかなり減量なり。髻そる。

午後、和田君迎に來りて家に帰る。小雨ふりて寒し。晩飯後久しぶりにて小児等とあそぶ。九時就寝十二時頃迄ねむらず。

入院中見舞品

菓子大折 講談社

蒸菓子 和田

果実 村田式部

カステーラ 指方

丸まんスキ焼 小森（板橋）

あんこう鍋 大誠主人

丸見屋重話 鈴木氏亨

羊羹 小森（スガモ）

西洋菓子 大谷社長

カキモチ 国木田夫人

カマボコ 松山秀美

柚みそうに豆	みどりさん(国木田)	山ゴボウ	清水省三
果実	江戸源	果実	徳田秋声
うづら卵	吉野作造	七面鳥 玉子	松原伝吉
ソーセージ	佐藤充	玉子	河田ひでよ
メロン一籠	村松老人	西洋菓子	指方竜二
よせ鍋	大誠	果物	佐藤鶴吉
ボンカン一箱	藤井昇	菓子	三田村鷹魚
鶏卵	小松川とみほ	菓子	松本賛吉
羊かん	千駄谷 井上	菓子	横沢憲治
牛肉大名漬	藤井六輔(大坂より)	菓子	豊島
果実	山口剛	菓子	綿谷雪
菓子	井上宗助	凍豆腐 その他	小原敏丸
さしみ よせ鍋	大誠 石川君	干魚	江戸源
カステーラ	大坂 たつ子	菓子一箱	永見徳太郎君
果実	遊佐喜一	西洋菓子	青山米迦
大坂カマボコ	黒川一	羊かん	高橋菊三郎
伊予蒲鉾	清水省三	カレイ	小堀誠 花柳
イヨ八幡浜鈴間屋兄弟商会		いかだ鮠	清水省三
カマボコ、干蒲鉾、味淋 ^(ママ) ボン		メロン	村松先生
著書	和田英松	いなりづし	国木田治子
果実	大東鬼城	ボケの盆栽	藤井六輔
切花	村田妻女	乾柿	山口剛

四月一日

〔後記〕

眞山青果文庫の調査を主導し、「眞山青果文庫調査余録」(『調査研究報告』41号、42号)の中心メンバーでもあった青田寿美先生が令和五年一月五日に逝去されました。深甚の敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

や

山口剛	2/8, 2/19, 目録
遊佐喜一	1/13, 2/12, 目録
ユタカ	3/11
横沢憲治	2/2, 2/24, 2/25, 2/27, 3/1, 3/2, 3/5, 3/7, 3/12, 3/14, 3/15, 3/17, 3/19, 3/26, 3/28, 3/29, 目録
吉野作造	1/28, 目録

わ

若井	3/2
和田勝一	1/6, 1/9, 1/11, 1/13, 1/14, 1/15, 1/16, 1/17, 1/18, 1/19, 1/21, 1/22, 1/23, 1/25, 1/26, 1/28, 1/31, 2/2, 2/3, 2/6, 2/7, 2/8, 2/10, 2/11, 2/12, 2/13, 2/15, 2/19, 2/22, 2/23, 2/24, 2/25, 2/27, 2/28, 3/1, 3/2, 3/3, 3/4, 3/5, 3/6, 3/7, 3/8, 3/9, 3/10, 3/11, 3/12, 3/13, 3/17, 3/18, 3/19, 3/20, 3/21, 3/22, 3/24, 3/25, 3/26, 3/27, 3/30, 3/31, 目録
綿谷雪	1/6, 1/12, 1/15, 1/19, 1/21, 1/25, 1/31, 2/4, 2/8, 2/13, 2/17, 2/25, 3/3, 3/10, 3/20, 3/23, 目録
和田英松	2/7, 2/13, 2/18, 目録

は

蜂谷	3/21
花柳章太郎	目録
広田	3/2
福井庄三郎	2/6
藤井	1/9, 1/13, 1/14, 1/20, 3/3, 3/5, 3/27
藤井昇	1/16, 1/20, 1/21, 1/31, 2/9, 2/12, 2/14, 2/21, 3/6, 3/26, 目録
藤井六輔	3/22, 3/27, 目録
ふみ	1/27, 1/28, 1/30, 1/31, 2/6, 2/7, 2/11, 2/16, 2/19, 2/25, 2/26, 2/28, 3/1, 3/6, 3/10, 3/13, 3/21, 3/25

ま

升沢ちう	2/1
松尾芭蕉	3/9
松原伝吉	目録
松原伝五	2/25
松本賛吉	2/20, 目録
松山秀美	目録
真山いね	1/10, 1/11, 1/12, 1/16, 1/18, 1/20, 1/23, 1/26, 1/29, 2/1, 2/5, 2/8, 2/9, 2/14, 2/17, 2/18, 2/21, 2/23, 2/27, 3/5, 3/13, 3/18, 3/21, 3/25, 3/27
真山せつ子	1/6
真山(森)とみを	2/4, 3/29, 目録
真山美保(みほ子)	1/14, 1/18, 2/11, 3/1, 3/9, 3/25, 3/28
真山零一	1/9, 1/12, 1/14, 1/16, 1/18, 1/23, 1/24, 1/28, 1/31, 2/10, 2/11, 2/15, 2/19, 2/20, 2/21, 2/23, 3/1, 3/4, 3/6, 3/9, 3/11, 3/12, 3/13, 3/14, 3/15, 3/23, 3/26, 3/27, 3/30
丸善	3/30
三田村鳶魚	3/9, 目録
皆川芳造	2/26
宮紫暁	1/24
みよ子	1/12
村田式部	1/10, 1/15, 1/29, 2/10, 2/12, 2/21, 2/24, 3/9, 3/13, 目録
村松春水	1/31, 2/7, 2/17, 2/18, 2/27, 2/28, 3/1, 3/13, 目録

指方龍二	目録
五月のぶ子	2/13
佐藤鶴吉	1/7, 3/4, 3/22, 3/23, 3/29, 目録
佐藤充	1/29, 1/30, 3/19, 目録
志波	1/13, 2/27
清水省三	1/13, 1/17, 2/14, 2/23, 2/24, 2/25, 2/28, 3/2, 目録
松竹	2/12, 2/19, 2/21, 2/22, 2/25, 3/12, 3/13, 3/14
白石慶三	1/24
鈴木氏亨	1/6, 1/19, 2/26, 目録
住田正一	1/31, 2/1
た	
第一書房	2/19
高成田忠風	3/25
高橋	3/26
高橋菊三郎	3/9, 目録
高橋彦衛	1/5
滝本誠一	1/5
たつ子	3/23, 3/24, 3/29, 目録
ちよ	2/3, 2/12, 2/13, 2/17, 2/22, 2/24, 3/5, 3/7, 3/14, 3/17, 3/20
帝国キネマ	2/21
寺木	2/26
唐人お吉	1/25, 1/26, 2/1, 2/7, 2/17, 3/1, 3/13
徳田秋声	2/16, 2/24, 目録
吐鳳堂	1/19
豊島	目録
な	
中垣	2/15
中島（上州中島）	1/6, 1/7, 3/19
中島四郎	1/7, 3/11
中根駒十郎	1/19
中原	3/17
永見徳太郎	目録
乃木希典	2/22, 2/25, 3/3, 3/5, 3/18

額原退蔵	1/13, 2/5, 3/14
遠藤佐々喜	1/5
大谷竹次郎	1/22, 1/23, 2/12, 2/28, 3/12, 3/13, 目録
大原	3/10
大東鬼城	2/20, 目録
大平野虹	2/25, 3/9
荻生徂徠	1/19, 3/30
小栗儀造	1/21
尾崎久弥	3/2
小野	3/6
尾上菊五郎	3/25
小原敏丸	2/18, 2/20, 3/2, 目録
折口信夫	3/2
か	
改造社	3/2
かよ子	2/8
河合武雄	1/25
河田ひでよ	目録
神田巖松堂	1/31
菊池武継	1/17, 1/18, 1/21, 1/24
喜田貞吉	1/25, 1/29
喜多村緑郎	2/16, 3/2
共同印刷	3/6
国木田虎雄	2/6
国木田治子（国木田夫人）	1/15, 1/23, 3/14, 3/15, 3/18, 目録
国木田みどり	1/25, 目録
黒川一	1/10, 1/16, 1/23, 2/6, 2/17, 2/21, 2/22, 2/25, 2/28, 3/1, 3/5, 3/15, 3/22, 目録
幸田露伴	2/3, 2/7, 3/9, 3/10
講談社	1/28, 3/24, 目録
小堀誠	目録
小森（姉弟・板橋）	1/17, 目録
小森（スガモ）	目録
さ	
坂口	3/4

人名索引

凡例

- ・配列は姓名の五十音順とした。姓あるいは名のいずれか一方のみしか判明しない人物についても、その読みに従って配列した。
- ・姓名の読みは推定のものも含む。
- ・歴史上の人物については、広く知られている呼称を項目に立てた。
- ・利用の便を考慮し、作品名に含まれる人名、出版社名や書店名なども採録した。
- ・姓や名の記載を伴わない普通名詞は、特定の人物・組織を指すと推定されても、一部の例外を除き立項・採録しないことを原則とした。
- ・日記の記事において索引項目とは異なる呼称が使用されている場合や、同姓あるいは同名の人物を区別する必要がある場合などは、補足の情報を（ ）に入れて示した。
- ・昭和5年3月31日の条の「入院中見舞品」の箇所に記載されている人名については、「日記月日」の項目においてその所在を「目録」と記した。

人名	日記月日
あ	
青山米迦	目録
赤木	1/9, 2/18, 3/4, 3/6, 3/11
伊佐	1/10
石川	目録
市川八百蔵	2/12
伊藤熹朔	1/15
伊藤清	2/26
稲田龍吉	1/9, 1/11, 1/14, 1/18, 1/21, 1/28, 2/4, 2/10, 2/24, 3/4, 3/27
猪野	1/12, 2/12, 2/28, 3/10
井上（千駄谷）	目録
井上宗助	2/9, 目録
井上正夫	1/22, 2/2, 2/12, 2/28
井原西鶴	1/5, 1/6, 1/7, 1/17, 1/19, 2/17, 2/20, 3/1, 3/2, 3/12, 3/14, 3/28
今村明恒	2/24
巖谷三一	2/19
うた子	3/21
内ヶ崎作三郎	2/22
宇野四郎	1/23
江藤新平（江藤南白）	2/2

